

クラリスロマイシン (CAS no. 81103-11-9)

文献信頼性評価結果

示唆された作用							
エストロゲン	抗エストロゲン	アンドロゲン	抗アンドロゲン	甲状腺ホルモン	抗甲状腺ホルモン	脱皮ホルモン	その他*
—	—	—	—	—	—	—	○

○：既存知見から示唆された作用

—：既存知見から示唆されなかった作用

*その他：視床下部—下垂体—生殖腺軸への作用等

クラリスロマイシンの内分泌かく乱作用に関連する報告として、試験管内試験の報告において、ステロイド代謝酵素への影響を示すことが示唆された。

(1)ステロイド代謝酵素への影響

- Akiyoshi ら(2013)によって、クラリスロマイシン 0.1、0.3、1、5、20 μ M(=150、748、2,240、7,480、37,400 μ g/L)の濃度で CYP3A4.1 によるテストステロン 6 β -水酸化酵素比活性への影響が検討されている。その結果として、Ki 値 0.793 μ M(=593 μ g/L)の濃度でテストステロン 6 β -水酸化の阻害が認められた。

想定される作用メカニズム：テストステロンの代謝阻害

参考文献

Akiyoshi T, Ito M, Murase S, Miyazaki M, Guengerich FP, Nakamura K, Yamamoto K and Ohtani H (2013) Mechanism-based inhibition profiles of erythromycin and clarithromycin with cytochrome P450 3A4 genetic variants. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics*, 28 (5), 411-415.

(平成 29 年度第 1 回 EXTEND2016 化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会 資料 1-1 より抜粋)